

キックオフ

発行元：特定非営利活動法人
@リアスNPOサポートセンター
〒026-0013
岩手県釜石市浜町1-1-1
市営釜石ビル301
TEL: 0193-55-4803 FAX: 0193-55-4804
Mail: info@cadatte-kamaishi.com

2011 12月号

特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンターは、釜石・大槌でまちづくりの活動をするNPO法人です。2003年4月より活動を開始し、住民・行政・地域企業などと連携して地域を支えてきました。これからも釜石・大槌地域のみなさんの「思い」が地域のひとつの力となるよう、お手伝いをしていきたいと思ひます。

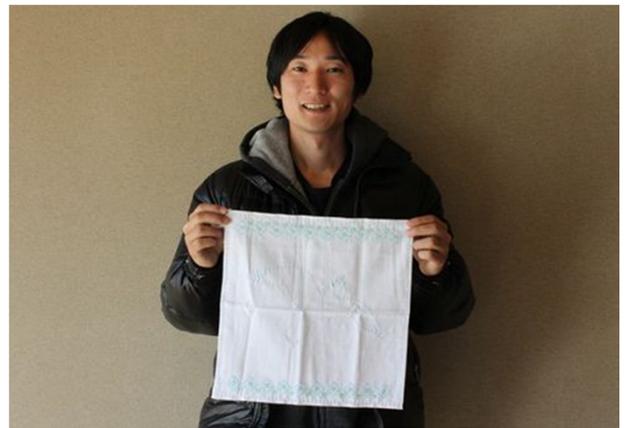
頑張ろう三陸!! つながろう三陸!!

☆☆大槌復興刺し子プロジェクト☆☆

刺し子とは、布に一針一針模様を刺す日本中で広く親しまれている昔ながらの手芸です。大槌町内の被災者支援活動「大槌復興刺し子プロジェクト」は、厳しい避難所生活の中で、時間はあるがやる事が無いという女性たちの「何かをしたい」という思いが生み出した仕事です。

このプロジェクトは、「魚(物資)ではなく、釣り竿(お金を得る手段)を届けよう」というのが目標です。千葉県出身の吉野和也さんは、勤めていた会社を退社し、被災地ボランティアに駆けつけた際に避難所を回る中で、女性たちに何か仕事を創造したいと模索し、限られたスペースと道具を用いて、女性たちが得意の腕を生かせる「刺し子」の製作にたどり着いたのが始まりです。その後、プロジェクトの更なる発展と拡大の為、2011年8月に「特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス」へ事業を譲渡しました。現在は、テラ・ルネッサンスのメンバーと、立ち上げメンバーを含む有志の個人ボランティアで、プロジェクトを運営しています。

5月中旬から製作準備等に取り掛かり、6月中旬よりインターネットで販売を開始しました。刺し子プロジェクトの作り手さんは、現在大槌町内で約100名。商品のふきん(1枚・税込1,200円)とコースター(1枚・税込700円)の内、それぞれ500円と300円が仕事の対価として作り手さんたちに直接渡ります。販売の方は好調で、現在両方合わせて2,400枚以上が販売され、130万円以上が作り手さんたちの収



<スタッフの吉野和也さん>

入となっています。作り手さんからは、「刺し子の給料で孫にジュースを買ってあげられたよ!」「本当にありがたい」といった声をたくさんいただき、こちらが逆に元気をもらおうと吉野さんは話していました。

開始当初より講習会を週に1回程度行っていて、現在では「本舗 飛騨さしこ」の方々の協力をいただきながら、技術指導などに力を入れています。あくまでこのプロジェクトの主役は刺し子をして下さる現地の方々。どれだけプロジェクトのスタッフが頑張ろうとも、他地区の支援組織が力や知恵を貸そうとも、現地の人々に未来を提示してビジョンを共有していかなければ継続は難しい。「現在、購入して下さる全国の皆様は被災地支援を目的に購入してくださっていますが、それもいつかは終わってしまう。このプロジェクトを最低10年以上続けるためにしっかりと今後の計画を立てなければ・・・」と吉野さんは言います。

今後は色々な企業とタイアップしながら伝統工芸を復活させ、大槌の刺し子をしっかりとブランド化していきたいとの事です。



【大槌復興刺し子プロジェクト 事務局】

- ◆E-mail info.otsuchi.sashiko@gmail.com
- ◆HP <http://osp2011.web.fc2.com/index.html>
- ◆TEL 0198-68-3370

◆◇かまいし仙人峠マラソン◇◆

10月30日、「復興への峠を駆け上げれ！」を合言葉に「第2回かまいし仙人峠マラソン」が開催されました。参加者は750名。ゲストランナーにはエスビー食品(株)の瀬古利彦さんと国近友昭さんをお迎えしました。前日にはシープラザ遊にて、参加者の交流会が行われキッチンカーや浜焼きコーナー、ゲストランナーのサイン会もありました。本郷桜舞太鼓・平田虎舞が披露されると、会場からは大きな拍手と歓声が湧きあがりました。

マラソンの種目は10キロコースと峠コース(17.2キロ)で、旧釜石鉱山事務所をスタートしました。特に峠コースは、あの箱根に匹敵する急勾配で標高差400メートル、平均斜度5%の難コースです。



開会式を終え、ランナー達は笑顔でスタートを切りました。様々な思いを胸に、走るランナー達。声援を送る人達にも自然と力が入っていきます。最大の難関「仙人大橋」の急坂。素晴らしい紅葉を横目に、急勾配にもめげず、一步一步踏み出す姿に、どんな困難にも打ち勝つ不撓不屈の精神を感じました。下り坂では、足が自然に前へと進み、走る姿も軽やかに見えるほど。初対面同士が手を取り合い、「一緒に走りましょう」とゴールする姿もありました。この難コースを走った者同士から、自然と生まれる絆。完走後も「ありがとう！」と声を掛け合う姿が多く見られ、ランナー達の最後まで諦めない強さと復興にかける情熱を感じました。

■ □ 復活！店舗紹介 □ ■

釜石・わかる子ふやす松倉教室

震災前、鶴住居地区で営業していた「わかる子ふやす鶴住居教室」は津波で全てが流出し「わかる子ふやす松倉教室」となって再出発しました。

現在の生徒数は小中高生20名ほど。生徒たちはみんな明るく元気。土橋先生は生徒たちから元気ももらっているそうです。この日も笑顔が溢れ、とても明るい教室でした。地域の皆様と共に、被災者のニーズに添えるようにしていきたいと土橋先生は話していました。体験学習も行っております。お近くの方は、是非ご参加ください。



【わかる子ふやす松倉教室】釜石市甲子町10-313-17
TEL 0193-23-0059 E-mail dohatan@ksf.biglobe.ne.jp

大槌・つつみ石材店

大槌町・吉里吉里にある「つつみ石材店」は、震災によって展示場・作業場・機材など全てを失いました。震災後に従業員を一度解雇するのは苦渋の決断だったと代表の芳賀光さんは当時を振り返ります。

今年のお盆は皆にとって本当に特別なもの。皆がお盆に墓参りをできるよう、徐々に実費で機材を直し、お盆前にはお墓の修理などの業務を再開しました。今後もお客様との距離感を大事にし、丁寧な施工を心がけていきたいとの事です。お墓でお困りの事は何なりとご相談下さい。



【つつみ石材店】大槌町吉里吉里2-2-1
定休：不定休 TEL 0193-44-3689

◆◇復興写真展・復興カメラ◇◆

11月7～8日、東京都東銀座の「いわて銀河プラザ」で復興写真展「復興カメラ」が開催されました。@リアスNPOサポートセンターのメンバーが、3月11日～10月までの復興の記録の中から、厳選した写真約50点を東京の方々にも是非見ていただきたいと思い、今回の写真展を企画しました。

会場には平日の日中にも関わらず、たくさんの方々が来場し、釜石・大槌地域の様子を見ていただきました。被災後から現在までの復興への道のりを見て驚いたり、復興に向けて頑張っている姿を見て



涙を流したり、被災地の現状を少しでも報告できたかと思えます。

また会場では尺八奏者「きのはち」とバイオニストの「竹内純」さんのミニライブが行われ、ご来場した方々を魅了していました。写真展を訪れた方々から「次回も是非開催してほしい」「これ以降の写真もぜひ見たい」などご意見をいただき、また励ましのお言葉もかけていただいたりと、私たちの役目を少しでも果たせたのかなと思えます。

おらが大槌！復興食堂

11月11日(金)、大槌町・上町に「おらが大槌・復興食堂」が開店しました。この食堂は民間有志の団体「一般社団法人 おらが大槌夢広場」が管理し、緊急雇用対策で10数名が雇用され運営しています。

開店セレモニーでは代表の阿部敬一さんが「ここから復興の狼煙を上げていきたい」と挨拶。震災後、食堂が少なかった大槌町にとっては待望の食堂ということもあり、たくさんの方々が来店されました。

メニューは三陸の海の幸を使った「海鮮丼」、米粉を使った「大槌うどん」、鮭・いくら・めかぶを使った「おらが丼」で、どれもボリューム満点でした。今後はメニューも順次増やしていくとの事です。

また食堂の他に、震災前・震災後の大槌町の写真や新聞記事を展示するスペースもあり、震災前の大槌町が本当に懐かしく思われました。毎日営業しておりますので、お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



ブラックボード講習会



10月31日(月)、大槌町中央公民館にて、「ブラックボード・ポップ講習会」が行われました。ブラックボードを仮設店舗で活用しようと、講習会には地元企業41社が参加しました。主催は大槌商工会。講師は、ポップ業界の第一人者「石川香代」先生です。

大槌町には震災前に約430社の企業があり、約9割の企業が被災しました。11月末より順次オープンする仮設店舗で使用するために、参加者は真剣なまなざしで勉強していました。

のぼりやポスターなどポップ一つでお店の雰囲気ガラッと変わる事がありますし、ペンや色の使い方一つでかなり印象が変わります。そこがポップの不思議な魅力だと感じました。

最後に石川先生より希望する企業の方々に、それぞれのお店のお勧めの商品や思いの言葉が掲げられた看板がプレゼントされました。これらの看板が商店街復活の起爆剤となるよう期待します。

◆◇支援団体の紹介◇◆



特定非営利活動(NPO)法人

パレスチナ子どものキャンペーン

「特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン」は、1986年に日本の市民が作ったNGO(民間団体)で、1999年には特定非営利活動(NPO)法人の認可を得ました。国籍や宗教、民族にとらわれず、パレスチナと中東地域の平和を願い、そこに生きる子どもたちが希望を持って成長できるように、教育・保健・福祉分野での支援と人権擁護を進めてきました。

震災後は、3月下旬より現地調査に入り、主に大槌町を中心に活動を展開してきました。主な活動内容は、物資搬送・炊き出し支援、大槌中央公民館・安渡小学校へ拠点を設けての子どもへの支援、



<子どもピクニックの様子>



<写真・アルバムの展示会>

地元企業と協力しての家具の製作・設置、小学校の送迎バスの引率など多岐にわたります。また、被災地で拾得された写真を可能な限り清掃・整理をして、住民の皆さまにお返していますが、大切な記録が心の支えになればと願い、継続して清掃・整理を行っています。

今後は、大槌町内に児童館の建設を予定しています。厳しい冬を子どもたちが楽しく過ごせるよう、活動に力を注ぎ子どもたちを見守っていきます。

【パレスチナ子どものキャンペーン】

何かございましたらお気軽にお問い合わせください。

◆事務局 〒026-0412 岩手県釜石市栗林町17-59-1
栗林第2仮設B団地6-2

◆TEL 090-6639-7101(担当:三原)

◆HP <http://ccp-ngo.jp/> ◆E-mail ccp@bd.mbn.or.jp

▼△お知らせ△▼

【糖尿病教室】

せいてつ記念病院では、毎月第2水曜日の午前11時より眼科待合室にて糖尿病教室を開催しています。参加無料ですので、ぜひご参加ください。

- 次回開催日時 12月14日(水) 11時～
- 題材 特別な日(クリスマス・正月)の食事について
- 問い合わせ せいてつ記念病院内科外来 TEL 0193-23-2030



【盛岡市緊急雇用創出事業】

代行料 1回100円

買い物代行

芽でるカー 大槌

電話：090-7563-0937

日用品・食料品・雑貨などの買い物を代行します。(大型商品についてはご相談ください)

事業主体：盛岡市・もりおか女性センター 事業実施主体：特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて

【編集後記】

震災から約9か月が過ぎ、また寒い冬がやってきます。防寒対策はしっかりしましょう。また、12月はイベントの多い月です。特に年末のクリスマスは楽しみです！今年は色々なサンタさんが現れる予感がします。温かいチキンを食べ、皆様心が暖まれる様に願います…

情報誌「キックオフ」は岩手県沿岸広域振興局の地域コミュニティ再生事業の一環として、@リアスNPOサポートセンターが委託を受け、企画運営をしています。

情報誌「キックオフ」では、皆様より情報を募集しています。イベントの情報・営業中のお店の情報・その他・紙面に載せてほしい情報など何でもお気軽にお問い合わせください。お待ちしております！
* 広告料等は一切かかりません。

復興情報誌「キックオフ」編集部

TEL：0193-55-4803

Mail: info@cadatte-kamaishi.com

募集中